

第7回 サル痘に関する関係省庁対策会議幹事会

日 時：令和4年12月21日（水） 17：00

議 題：サル痘患者の発生について

資料1：報道発表資料（厚生労働省・神奈川県）

※厚生労働省及び神奈川県の本症例に関する報道発表資料です。

資料2：サル痘の感染状況について

※サル痘海外発生に関する資料です。国際的には減少傾向にあります。

資料3：サル痘Q&A

※参考として厚生労働省HPで公開中のQ&Aを配布します。

報道関係者 各位

令和4年12月21日

【照会先】厚生労働省 健康局 結核感染症課
感染症情報管理室長 今川正紀（内線 2389）
課長補佐 杉原淳 （内線 2373）
（代表番号） 03（5253）1111
（直通番号） 03（3595）2257

サル痘患者の発生について

発疹等の症状を示し、サル痘への罹患が疑われた男性1名に関して検査の結果、サル痘の患者と確認されたことが、本日、神奈川県から報告されました。

（別紙：神奈川県プレスリリース）

我が国では、サル痘は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）において、4類感染症に指定されており、届出義務の対象となっています。

患者に関する情報は、以下のとおりです。

年代	性別	症状	医療機関 受診日	居住自治体 (居住地)	海外 渡航歴	その他
40代	男性	発疹、リンパ節腫脹、咽頭痛、倦怠感	12月14日	神奈川県	なし	・患者の状態は安定している。 ・現在、神奈川県内の医療機関において入院中

報道機関各位におかれましては、ご本人やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。医療機関への直接の取材や問い合わせはお控えください。

国民の皆様へのメッセージ

サル痘は、サル痘ウイルスによる急性発疹性疾患です。主にアフリカ大陸に生息するリスなどのげっ歯類が自然宿主とされており、感染した動物に噛まれたり、感染した動物の血液、体液、皮膚病変（発疹部位）との接触による感染が確認されています。主に感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合（性的接触を含む）、患者と近くで対面し、長時間の飛沫にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合等により感染します。これまでアフリカ大陸の流行地域（アフリカ大陸西部から中央部）で主に発生が確認されていましたが、2022年5月以降海外渡航歴のないサル痘患者が欧米等を中心に世界各国で確認されています。

サル痘の潜伏期間は7～14日（最大5～21日）とされており、潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が0～5日続き、発熱1～3日後に発疹が出現、発症から2～4週間で治癒するとされています。

発熱、発疹等、体調に異常がある場合には身近な医療機関に相談するとともに、手指消毒等の基本的な感染対策を行ってください。

海外からの帰国者は、体調に異常がある場合は、到着した空港等の検疫ブースで検疫官に申し出てください。帰国後に症状が認められた場合は、医療機関を受診し、海外への渡航歴を教えてください。

なお、海外では、サル痘の予防に対しては、天然痘ワクチンが有効であるとの報告がなされており、ウイルスへの曝露後4日以内の接種で感染予防効果が、曝露後4～14日以内の接種で重症化予防効果があるとされています。国内で承認されている天然痘ワクチンについては、令和4年8月2日にサル痘の予防への適応が追加で承認されたところであり、国内において、接触者の方に対して必要に応じて投与するための臨床研究体制を構築しています。

サル痘の患者の発生について

12月20日、県内の医療機関から管轄の保健所に対して、サル痘の疑いのある患者が報告されました。

当該患者の検体を県内の衛生研究所で検査したところ、本日、サル痘の陽性の結果が得られました。

なお、報道機関各位におかれましては、患者様やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。医療機関への取材や直接のお問い合わせはお控えください。

患者の概要

年代：40代

性別：男性

居住自治体：神奈川県

症状：発疹、リンパ節腫脹、咽頭痛、倦怠感

海外渡航歴：なし

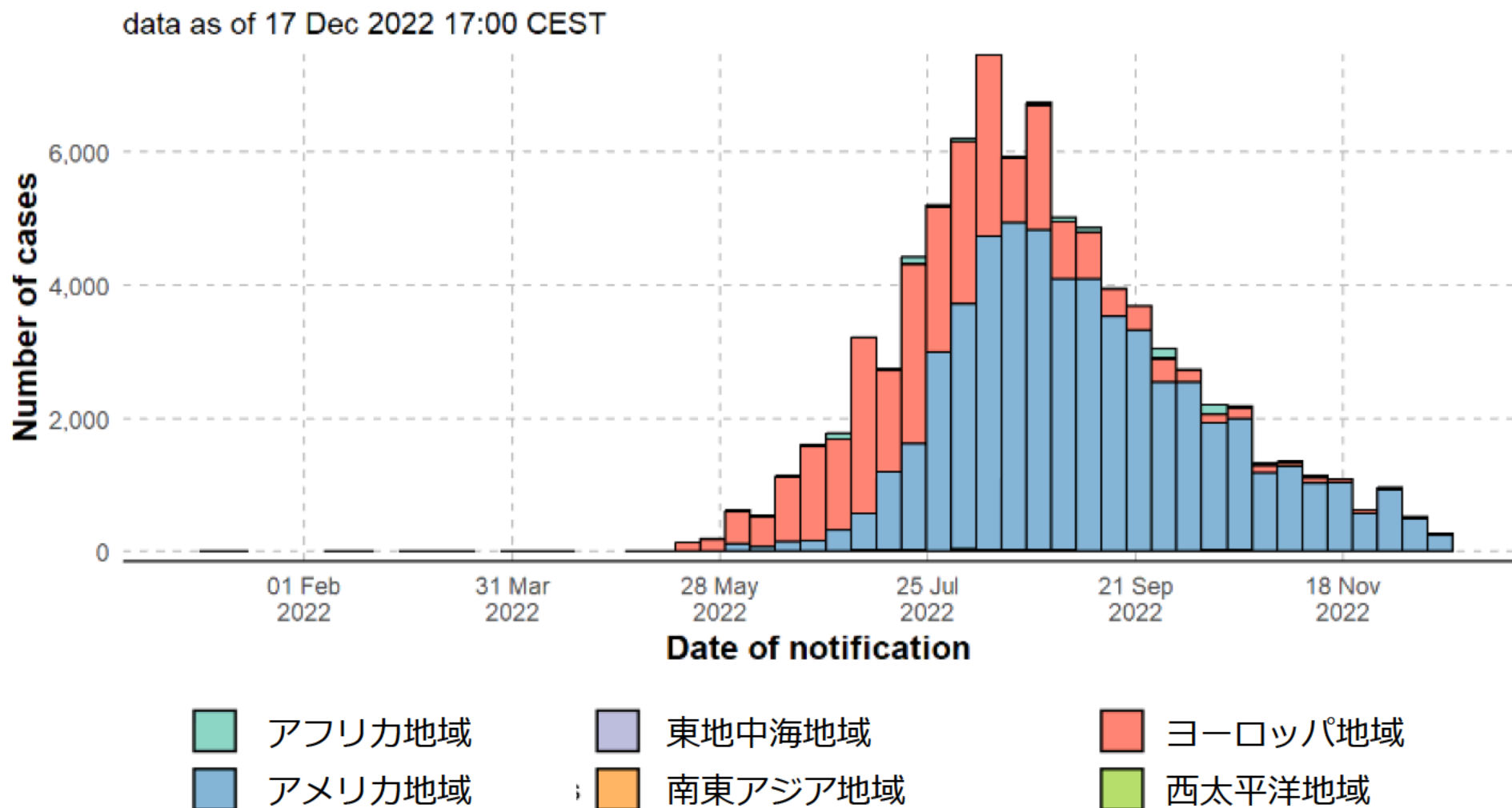
患者の状況：現在、県内の医療機関に入院中。状態は安定している。

参考資料：厚生労働省発表資料

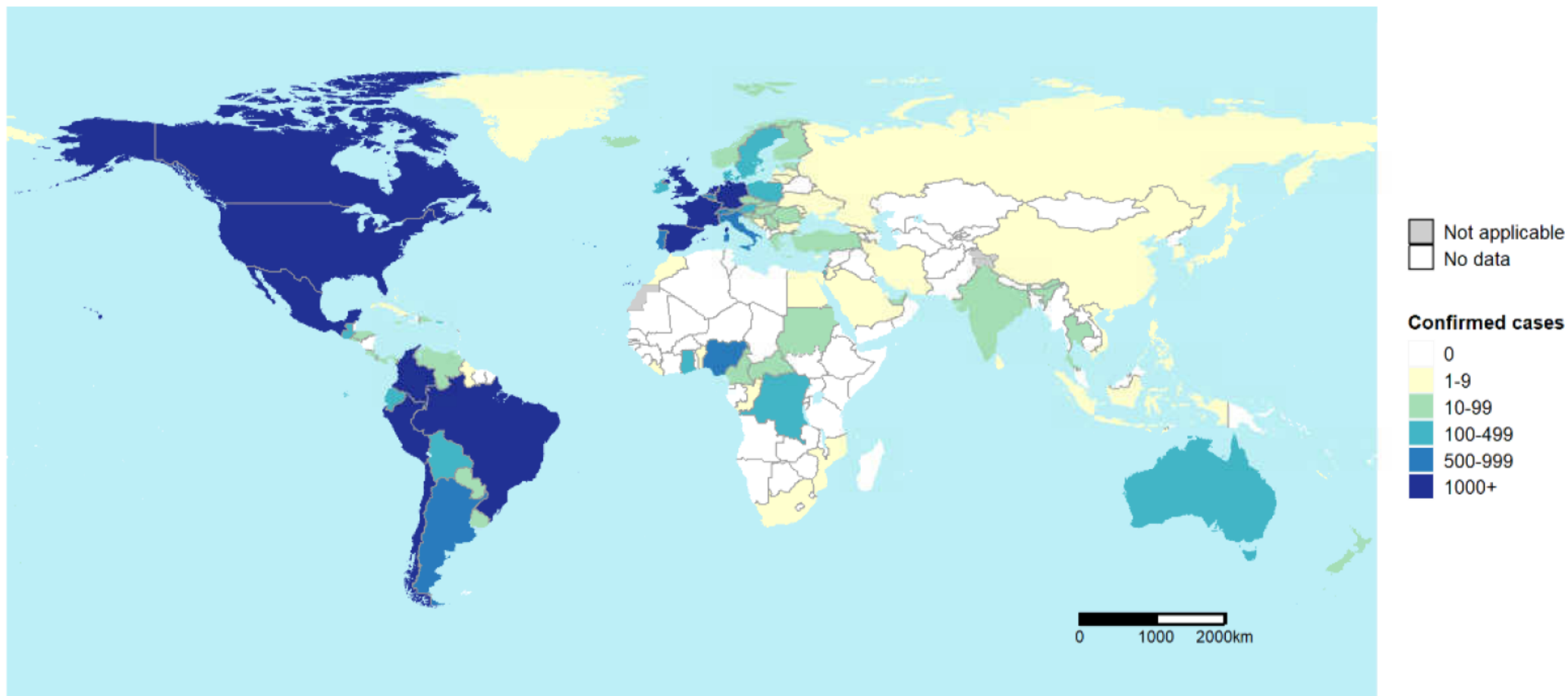
県民の皆様へ

- 「サル痘」は、アフリカ大陸の流行地域（アフリカ大陸西部から中央部）で主に発生が確認されていましたが、2022年5月以降海外渡航歴のないサル痘患者が欧米等を中心に世界各国で確認されています。
- 主に、感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合（性的接触を含む）により感染します。また、患者と近くで対面し長時間の飛沫にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合等も感染の可能性があります。現時点では、日常生活の中で空気感染を起こすことは確認されていません。
- 治療は抗生物質などの対症療法が中心ですが、ほとんどは軽症で、2～4週間で治癒するケースが多いとされています。
- 過剰に心配することなく、発熱、発疹といった症状がある場合には、マスク着用の上、衣服やガーゼ等で皮膚の病変を覆い、お近くの医療機関を受診して下さい。

Epidemic curve shown for cases reported up to 18 Dec 2022 to avoid showing incomplete weeks of data.

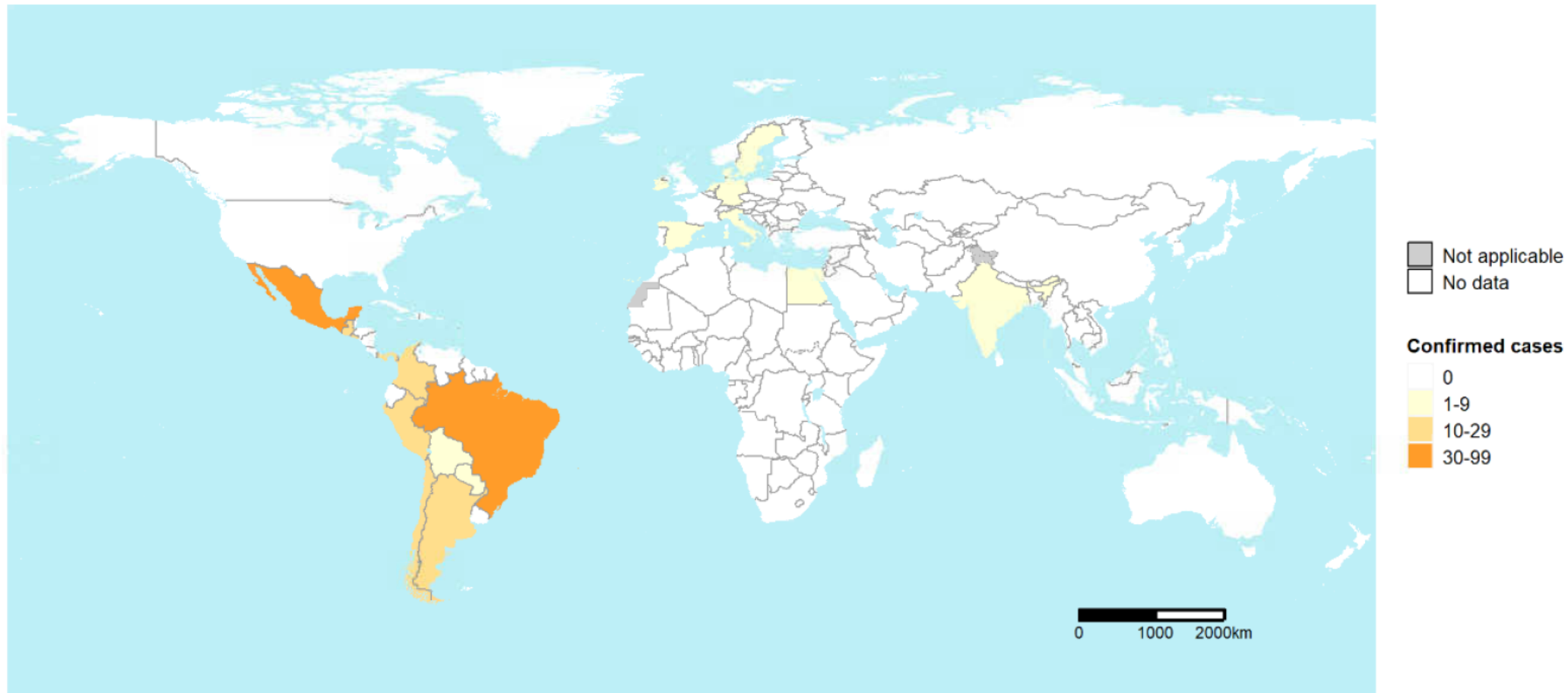


Source: WHO



The designations employed and the presentation of the material in this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of WHO concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

Data Source: World Health Organization
 Map Production: WHO Health Emergencies Programme
 © WHO 2022. All rights reserved.



The designations employed and the presentation of the material in this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of WHO concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

Data Source: World Health Organization
Map Production: WHO Health Emergencies Programme
© WHO 2022. All rights reserved.

国	確定例
米国	29,513
ブラジル	10,293
スペイン	7,416
フランス	4,110
コロンビア	3,908
英国	3,730
ドイツ	3,675
ペルー	3,587
メキシコ	3,509
カナダ	1,459
チリ	1,356
オランダ	1,256
アルゼンチン	987
ポルトガル	948
イタリア	932

※ 日本：8例（2022年12月21日現在）

https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx_global/

健康・医療 **サル痘に関するQ&A**[サル痘に関するQ&A](#)**サル痘に関するQ&A**

(第1版 令和4年10月28日作成)

2022年5月以降、欧米を中心に患者の発生が報告されているサル痘について、国立感染症研究所が作成した資料等に基づき、解説します。

一般の方向け

- [問1 サル痘とは何ですか？](#)
- [問2 サル痘ウイルスとは何ですか？](#)
- [問3 サル痘はどこ地域で発生していますか？](#)
- [問4 なぜこの感染症はサル痘と呼ばれているのですか？](#)
- [問5 どのようにしてサル痘に感染するのですか？](#)
- [問6 どのような症状がありますか？](#)
- [問7 サル痘の症状が現れた時どうしたらよいですか？](#)
- [問8 何に気をつけたらよいですか？](#)
- [問9 治療方法はありますか？](#)
- [問10 ワクチンはありますか？](#)
- [問11 医療機関を受診して、サル痘の感染が疑われる場合、どのような検査を受けることになりますか？](#)

[ページの先頭へ戻る](#)**一般の方向け****問1 サル痘とは何ですか？**

サル痘ウイルスによる動物由来感染症で、ヒトと動物が感染します。感染から通常7～14日（短い場合5日、長い場合21日のこともある）の潜伏期間（感染してから症状があらわれるまでの期間）の後、典型的には発疹、発熱、倦怠感、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。多くは2～4週間ほど症状が続いた後自然に回復しますが、稀に重症化することがあります。

[ページの先頭へ戻る](#)**問2 サル痘ウイルスとは何ですか？**

サル痘ウイルスは、オルソポックスウイルス属に分類されるDNAウイルスです。オルソポックスウイルス属にはそのほかに天然痘（痘そう）ウイルスなどが含まれますが、サル痘ウイルスと天然痘ウイルスは別のウイルスです。

動物とヒトの両方に感染します。主に中央アフリカや西アフリカ地域のげっ歯類（ネズミヤリスなどが含まれる動物の分類群）がサル痘ウイルスを保有していると考えられています。

サル痘ウイルスは大きく分けてコンゴ盆地系統群と西アフリカ系統群の2種類の遺伝的系統群があり、西アフリカ系統群はコンゴ盆地系統群に比べて重症化しにくいと言われています。2022年5月以降のヨーロッパやアメリカ大陸などでの流行では、西アフリカ系統群が主に報告されています。

[ページの先頭へ戻る](#)**問3 サル痘はどこ地域で発生していますか？**

サル痘の常在地域（主に中央アフリカ、西アフリカ地域）での感染が以前から報告されています。サル痘の常在地域以外では、輸入感染症例（常在地域への渡航者の感染や、常在地域から輸入された動物の感染）の報告と、輸入感染症例に関連する報告に限られていました。しかし、2022年5月以降、サル痘の常在地域以外の地域（主にヨーロッパ、アメリカ大陸などの一部）でヒトからヒトへの感染が多数報告されています。世界保健機関（WHO）によると、2022年1月から2022年10月17日までに全世界で73,437例が報告され、そのうち64.3%(47,215例)がWHOアメリカ地域からの報告で、その次にWHOヨーロッパ地域(25,056例)などで報告されています。

日本国内でも確定診断の報告があります。

なお、最新のサル痘の発生状況は、WHO（世界保健機関）2022 Monkeypox Outbreak:Global Trends

（英語）https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx_global/で確認することができます。

[ページの先頭へ戻る](#)

問4 なぜこの感染症はサル痘と呼ばれているのですか？

この感染症の原因ウイルスは、1958年に研究用に飼育されていたサル集団で初めて確認されたため、サル痘ウイルスと呼ばれています。常在する地域では、げっ歯類（ネズミやリスなどが含まれる動物の分類群）がウイルスを保有していると考えられています。その後、1970年に初めてヒトでも感染が報告されました。

[ページの先頭へ戻る](#)

問5 どのようにしてサル痘に感染するのですか？

サル痘が常在している中央アフリカや西アフリカ地域のげっ歯類（ネズミやリスなどが含まれる動物の分類群）がサル痘ウイルスを保有していると考えられています。これらの地域で感染している動物と接触したり、かまれたり、野生動物の肉を調理したり、加熱が不十分な肉を食べたりすることで動物からヒトへ感染する可能性があります。

感染している方の発疹、カサブタ、体液や血液に触れること、性的な接触（口の中、肛門、性器との接触を含む）、近距離での対面で飛沫に長時間さらされること、感染している方の使用した寝具や器具などに触れることなどによって、ヒトからヒトへの感染が起こる可能性があります。

[ページの先頭へ戻る](#)

問6 どのような症状がありますか？

水ぶくれを伴う発疹に加え、多くの場合、発熱、寒気、倦怠感（だるさ）、リンパ節の腫れ、頭痛、筋肉痛などの全身の症状があらわれます。発疹は、最初は平坦ですが、内部に液体や膿がたまって膨れてくることがあります。膨れた発疹はカサブタができ、最終的にはカサブタの下で新しい皮膚ができた後、カサブタが剥がれ落ちます。

多くの場合2～4週間ほど症状が続いた後自然に回復しますが、稀に重症化することがあります。

潜伏期間（感染してから症状があらわれるまでの期間）は通常7～14日（短い場合5日、長い場合21日のこともある）とされています。

中央アフリカや西アフリカなどのサル痘が常在する地域からは、発熱などの全身症状が見られ、その後全身に発疹があらわれる症例が多く報告されています。一方で、2022年5月以降の流行では、「発疹が発熱などの全身症状よりも先に見られる」「発疹が性器や肛門周辺に限ってあらわれる」「発疹以外の症状を伴わない」など、これまでに知られていた症状とは異なる報告も見られます。何らかの理由で（例えば感染経路の違いなどで）症状に違いがある可能性が指摘されています。

[ページの先頭へ戻る](#)

問7 サル痘の症状が現れたときどうすればよいですか？

ご自身にサル痘の疑いがある症状（問6を参照してください）があらわれた場合（特に、サル痘に感染している方との接触や、不特定多数との性的接触があった後など）には、医療機関に「サル痘の可能性がある」ことを伝えてご相談ください。

なお、医療機関を受診する際には、マスクの着用、発疹部位をガーゼなどでおおうなどの対策をしてください。

また、サル痘の発疹が完全に治まり、カサブタが落ちるまでの間は、他の方に感染させてしまう可能性があります。医療機関や保健所の助言に従い、他の人との接触を避けるようにしてください（どの程度の期間で他の方への感染が起こらなくなるかの詳細は、現時点で調査中です）。

[ページの先頭へ戻る](#)

問8 何に気をつけたらよいですか？

サル痘は、感染している方の発疹、カサブタ、体液や血液に触れること、性的な接触（口の中、肛門、性器との接触を含む）、近距離での対面で飛沫に長時間さらされること、感染している方の使用した寝具や器具などに触れることなどによって、ヒトからヒトへの感染が起こる可能性があります。サル痘に感染している方や感染が疑われる方とは、上記の接触を避けるようにしてください。

サル痘が常在する国や地域（主に中央アフリカ、西アフリカ地域）に渡航する場合これらの国や地域は、動物がサル痘ウイルスを保有していることが知られています。現地では、野生動物、特にげっ歯類（ネズミやリスなどが含まれる動物の分類群）との接触を避けてください。加熱が十分でない動物の肉を食べることも、避けてください。

[ページの先頭へ戻る](#)

問9 治療方法はありますか？

症状に応じた治療が行われます。多くの場合は、発症から2～4週間で回復します。

小児、妊婦、免疫不全者などで重症化することがあります。

なお、サル痘ウイルスに効果のある治療薬は日本国内で流通していませんが、臨床研究でサル痘の患者を対象に投与出来る体制が構築されています。

[ページの先頭へ戻る](#)

問10 ワクチンがありますか？

天然痘ワクチンにサル痘の予防効果があると考えられています。現時点の国内では、サル痘の予防を目的とした接種は一般的にはされていませんが、サル痘に感染している方との接触者を対象とした臨床研究での接種がされています。

なお、天然痘ワクチンは、天然痘が撲滅された現在では通常は接種されておらず、日本の1976年生まれよりも若い世代は、天然痘ワクチンの接種歴がありません。

[ページの先頭へ戻る](#)

問11 医療機関を受診して、サル痘の感染が疑われる場合、どのような検査を受けることになりますか？

医療機関で、発疹などの病変部位から検査検体を採取し、地方衛生研究所または国立感染症研究所でサル痘ウイルスの検査（PCR）を行います。

[ページの先頭へ戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#)



PDFファイルを見るためには、[Adobe Reader](#)というソフトが必要です。[Adobe Readerは無料で配布されていますので、こちらからダウンロードしてください。](#)